

鍛治屋台遺跡 上貝来土遺跡（1033-1地点）

—倉庫用地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2 0 2 1

愛 花 創 業 株 式 会 社
芝 山 町 教 育 委 員 会

鍛冶屋台遺跡 上貝来土遺跡（1033-1地点）

—倉庫用地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—



2021

愛花創業株式会社
芝山町教育委員会



鐵冶屋台遺跡（南東より）



鐵冶屋台遺跡（南より）



鍛冶屋台遺跡（西より）



遺跡近景（西より）

例　言

1. 本書は、愛花創業株式会社による倉庫用地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書に所収される内容は、
 - ・千葉県山武郡芝山町岩山字長作816番地他に所在する、「鍛治屋台遺跡」
 - ・千葉県山武郡芝山町岩山字入道谷1033番地1他に所在する、「上貝米土遺跡（1033-1地点）」の発掘調査の成果である。なお、「上貝米土遺跡」については、過去に発掘調査が実施されてきたので、字名及び地番を入れることによって、今回の調査地点を明確にした。
3. 確認調査は、芝山町教育委員会が直営事業として実施した。また、本調査及び整理作業・報告書刊行は、愛花創業株式会社の委託に基づき、千葉県教育庁教育振興部文化財課の指導のもと芝山町教育委員会が次の通り実施した。
「鍛治屋台遺跡」
 - 確認調査期間 令和2年1月30日～同年2月8日
 - 本調査期間 令和2年10月7日～令和3年1月5日「上貝米土遺跡（1033-1地点）」
 - 確認調査期間 令和2年3月10日～同年3月15日
 - 整理作業期間 令和3年1月6日～令和3年3月31日なお、報告書刊行は令和3年度に実施した。
4. 調査組織は、以下の通りである。
 - 芝山町教育委員会（令和元年度・令和2年度）
 - 内田　誠（芝山町教育委員会教育長）
 - 小川　正明（教育課長）
 - 奥住　淳（文化振興係副主幹）
 - 山崎　一矢（文化振興係副主査）
 - 渡辺　修司（調査担当）
5. 出土遺物、図面等の記録類は、芝山町教育委員会が保管している。
6. 本書第1図の地形図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図『多古』の一部に加筆したものを使用した。
7. 本書図版1に使用したものは京葉測量株式会社による平成20年1月撮影のものである。
8. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関からご協力を賜った。ここに記して謝意を表します。
千葉県教育庁教育振興部文化財課、愛花創業株式会社、株式会社アジア開発興業、西山太郎、宮内勝巳

凡　例

1. 本書で用いた造構配置図は、公共座標（日本測地系）を基準として作成し、方位は全て座標北を示す。
2. 造構鉢図中の水系レベルの数値は、標高値を示す。
3. 計測値の（ ）内は、推定値及び現存する値を示す。
4. 本書において造構名をD=土坑のように略記した。
5. 土層断面図における擾乱の表示をKとした。

本文目次

例 言

第1章 序章

1. 調査に至る経緯	1
2. 遺跡の位置と環境	1

第2章 検出された遺構と遺物

1. 鋳治屋台遺跡	4
a. 古墳	4
b. 土坑	6
c. 出土遺物	7
2. 上貝来土遺跡（1033-1地点）	7

挿図目次

第1図 鋳治屋台遺跡・上貝来土遺跡（1033-1地点）の位置と周辺の遺跡	
第2図 鋳治屋台遺跡・上貝来土遺跡（1033-1地点）周辺の地形図	2
第3図 鋳治屋台遺跡・上貝来土遺跡（1033-1地点）トレンチ及び遺構配置図	3
第4図 鋳治屋台遺跡古墳土層実測図	4
第5図 鋳治屋台遺跡古墳実測図	5
第6図 D-001～D-003遺構実測図	6
第7図 鋳治屋台遺跡出土遺物実測図	7

表目次

第1表 鋳治屋台遺跡・上貝来土遺跡（1033-1地点）周辺の遺跡一覧表	2
第2表 鋳治屋台遺跡出土遺物観察表	7

図版目次

巻頭図版 1

鍛治屋台遺跡（南東より）

鍛治屋台遺跡（南より）

巻頭図版 2

鍛治屋台遺跡（西より）

遺跡近景（西より）

図版 1

遺跡周辺航空写真（平成20年1月4日撮影）

図版 2 鍛治屋台遺跡

1. 古墳検出状況
2. 古墳
3. D-001

図版 3 鍛治屋台遺跡

1. D-002
2. D-003
3. 出土遺物

図版 4 上貝来土遺跡（1033-1地点）

1. 遺跡近景
2. 第1トレンチ（西より）
3. 第8トレンチ（北より）



第1図 鋳冶屋台遺跡・上貝来土遺跡(1033-1地点)の位置と周辺の遺跡

1. 鋳冶屋台遺跡
2. 上貝来土遺跡(1033-1地点)
3. 上貝来土遺跡
4. 貝来土遺跡
5. 大通遺跡
6. 岩山中袋遺跡(No.2遺跡)
7. 東三里塙吉野台遺跡(No.3, 55, 56遺跡)
8. 五十石遺跡
9. 浅川山遺跡
10. 南三里塙新林遺跡
11. 大里所在馬手
12. 梅谷遺跡
13. 井戸森遺跡
14. 上宿遺跡
15. 大崩切遺跡
16. 古宿・上谷遺跡
17. 洞谷遺跡
18. 向台遺跡
19. 沖ノ台Ⅰ遺跡
20. 沖ノ台Ⅱ遺跡
21. 深田台遺跡
22. 宝馬遺跡(1709-37地点)
23. 宝馬遺跡(93-77地点)
24. 山田・宝馬古墳群(宝馬93-42地点)
25. 山田・宝馬古墳群(庚塙1098-1地点)
26. 山田・宝馬古墳群(1181-1地点)
27. 山田・宝馬古墳群(1020地点)
28. 新山遺跡(43-9地点)
29. 山田・宝馬古墳群(出口1300-36地点)
30. 山田・宝馬古墳群(宝馬290地点)
31. 山田・宝馬古墳群(浅間台293-1地点)
32. 坂志岡遺跡
33. 坂志岡・尼ヶ谷遺跡
34. 大里田古墳群
35. 宿道路(長作1691地点)
36. 岩山城

第1章 序章

1. 調査に至る経緯

株式会社アジア開発興業では、千葉県山武郡芝山町岩山字長作816番地他に、倉庫用地造成事業を計画した。当該地は、「千葉県埋蔵文化財分布地図（2）」と照合し、現地踏査を行ったところ用地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である「鍛治屋台遺跡」及び「上貝来土遺跡」が所在することが確認され、遺跡有りの回答を行った。工事に先立ち株式会社アジア開発興業より令和元年9月25日付けで、文化財保護法第93条に基づく発掘届（土木工事の届出）の提出を受けた。

遺跡の取扱について、株式会社アジア興業と施工業者である愛花創業株式会社との協議を行い、遺跡の性格及びその広がりを把握する目的で確認調査を芝山町教育委員会が直営で実施し、今後の検討資料とするこことになった。

確認調査は、「鍛治屋台遺跡」は5,200m²を対象として令和2年1月30日～2月8日に実施し、当該地域から竪穴住居跡2軒や土坑2基の遺構が検出された。

また、「上貝来土遺跡」は、3,486m²を対象として令和2年3月10日～3月15日に実施し、当該地域からは遺構は検出されなかった。なお、遺物については、計測不能の縄文土器片が出土した。

令和2年度になり愛花創業株式会社から「鍛治屋台遺跡」の取扱についての協議要請があり、開発行為の変更は不可能との申し出があった。

遺構の検出された範囲を中心とした全体で950m²の本調査が必要な旨を回答し、再協議が行われた。その結果、やむを得ず記録保存の处置を講ずることとなり、愛花創業株式会社の委託に基づき、芝山町教育委員会が発掘調査を実施した。

調査期間は、令和2年10月7日～令和3年1月5日で、確認調査の時点では竪穴住居跡と思われた遺構が古墳の周溝となり、古墳1基と土坑3基が検出された。

2. 遺跡の位置と環境

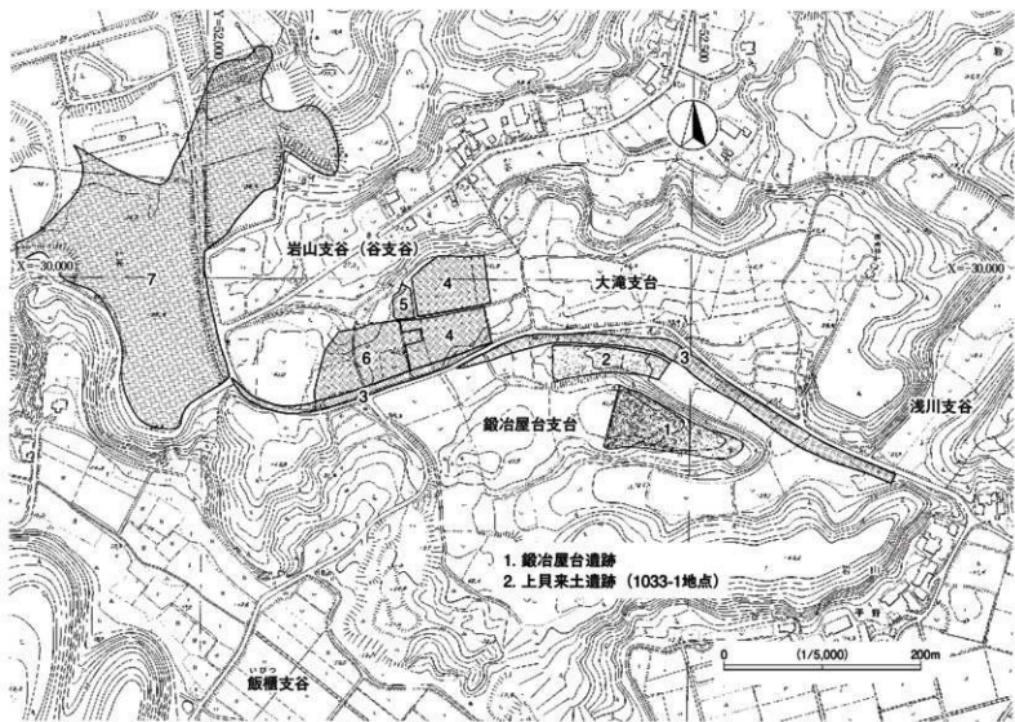
芝山町は、千葉県北東部、山武郡の最北部に位置し、南北に細長く伸びる内陸部に所在する。都心から西65km圏内、県都千葉市までは西南西28km、九十九里海岸（太平洋）に西南約15kmにあたる。当地域は、比較的自然に恵まれ、古くから人々の生活の痕跡が多く残されて、特に古墳群の立地は注目されている。

近隣の市町は、北に成田市、東に多古町、南に山武市、横芝光町、西に富里市にそれぞれ接し、下総台地の東部に位置し、森林や畑地が広がる。町域の東を栗山川水系の高谷川が流れ、西には木戸川が流れ、双方の河川の最上流域に相当し、両河川は南東方向に流れ九十九里海岸平野を経て太平洋に注いでいる。

鍛治屋台遺跡及び上貝来土遺跡は、山武郡芝山町岩山地先で成田国際空港の南側に近接し、岩山地域は町の北東部で、県道62号線成田松尾線が西を通る。古くから谷津田や畑地が目立つ農村地帯であったが、新東京国際空港（現：成田国際空港）開港に伴い長閑な環境が変貌した地域のひとつである。将来的には、成田国際空港の第3滑走路の計画があり、空港南部地域は物流基地・工業団地として更に発展することが予想される。

町内を一周すると、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が170カ所を超えて所在し、県内でも古墳の宝庫として知られている。芝山町周辺で100基程の古墳が残されているがかつては、500基を超える古墳があったと推定される。

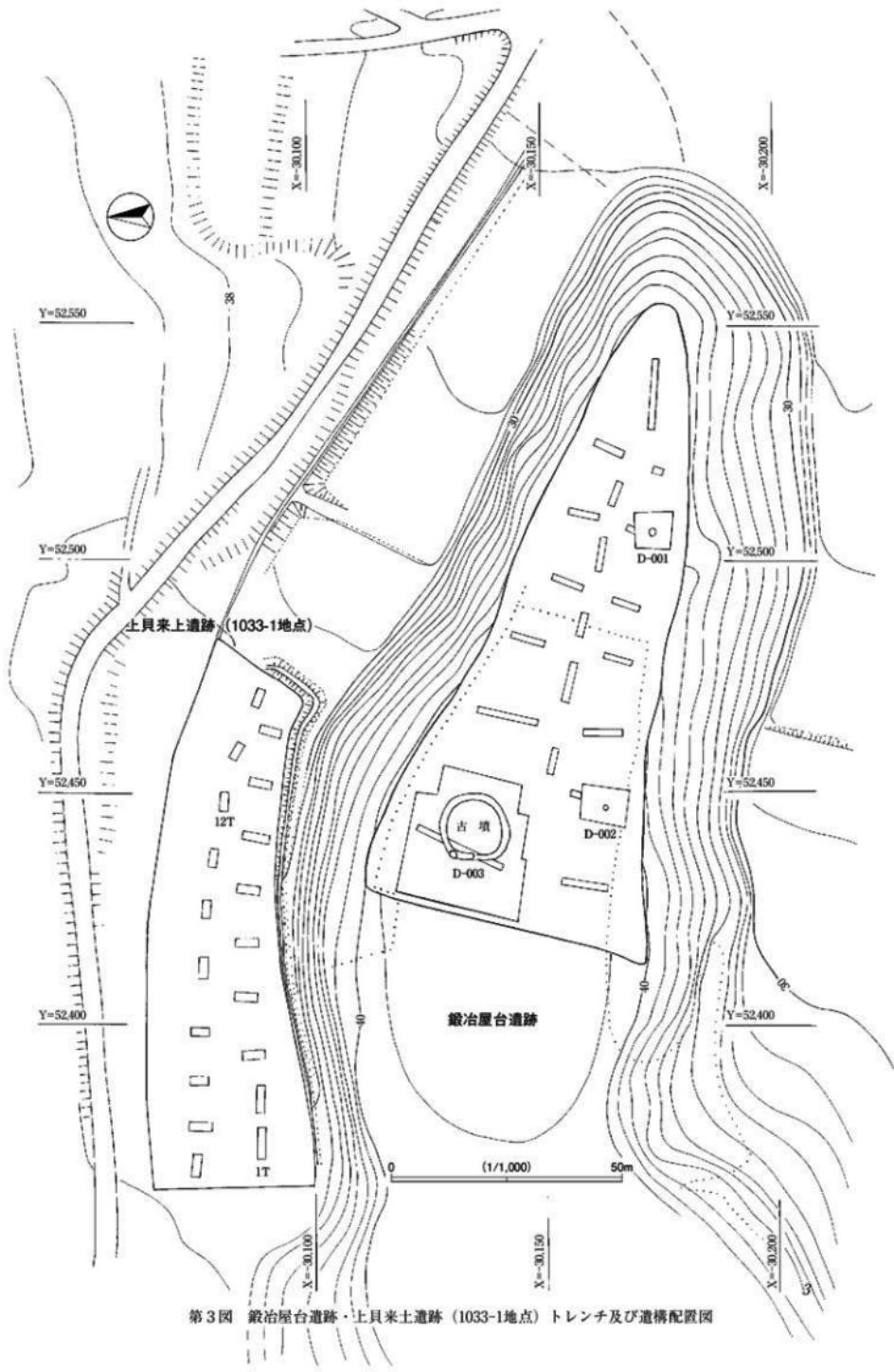
過去に周辺では、財千葉県文化財センター・財山武都市文化財センター・芝山町教育委員会により発掘調査が実施されていて、第2図・第1表に掲載した。



第2図 鋼治屋台遺跡・上貝来土遺跡(1033-1地点)周辺の地形図

第1表 鋼治屋台遺跡・上貝来土遺跡(1033-1地点)周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	参考文献	時代
1	鋼治屋台遺跡	芝山町岩山字長作816地	本書所収	古墳 横文
2	上貝来土遺跡 (1033-1地点)	芝山町岩山1033-1地	本書所収	横文
3	大瀬遺跡 上貝来土遺跡 貝来土遺跡	芝山町岩山字谷向1437地	島立桂一他 2006 「大瀬遺跡・上貝来土遺跡・貝来土遺跡」 財山武都市文化財センター	横文
4	大瀬遺跡 (谷向1412-1地点)	芝山町岩山字谷向1412-1地	大谷弘幸 2009 「大瀬遺跡(谷向1412-1地点)」 財山武都市文化財センター	横文 古墳 奈良・平安 中世
5	大瀬遺跡 (谷向1425地点)	芝山町岩山字谷向1425地	渡辺修司 2019 「大瀬遺跡(谷向1425地点)」 芝山町教育委員会	横文 奈良
6	大瀬遺跡 (谷向1423地点)	芝山町岩山字谷向1423地	渡辺修司 2008 「大瀬遺跡(谷向1423地点)」 「芝山町内遺跡発掘調査報告書-平成20年度-」 芝山町教育委員会	横文 奈良・平安
7	古宿・上谷遺跡	芝山町岩山字古宿	鳴田浩司 他 1998 「芝山町古宿・上谷遺跡」 「令和元年南部工業団地周辺文化財調査報告書」 財千葉県文化財センター	旧石器 横文 奈良・平安 中世近世



第2章 検出された遺構と遺物

1. 鐵治屋台遺跡

鐵治屋台遺跡周辺の遺跡は、北に上貝来土遺跡、東に貝来土遺跡、北西には大滝遺跡、北北西に岩山城が所在している。いずれの遺跡も高谷川支流によって開析された台地上に所在する。

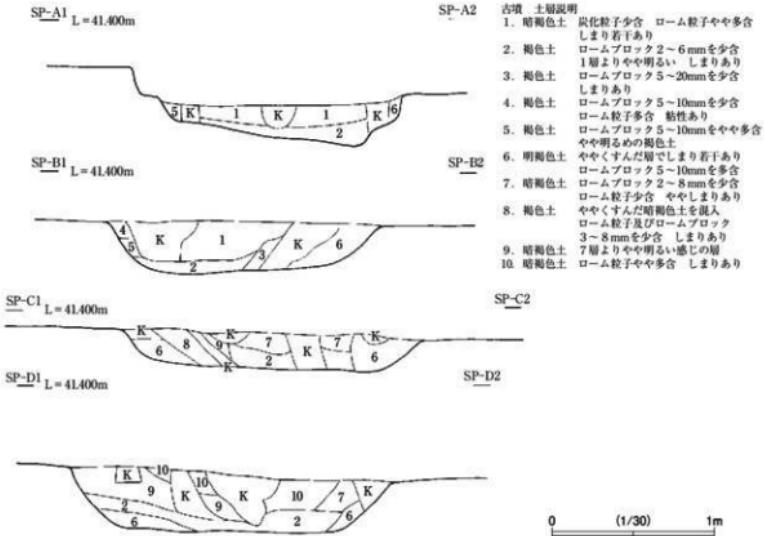
今回、調査を行った鐵治屋台遺跡は、高谷川上流・浅川支谷最上流部が南北に入り込んでいて、分水嶺にあたり、標高42m前後を測る鐵治屋台支台に立地している。本調査対象面積は950m²である。

a. 古墳（第4・5図）

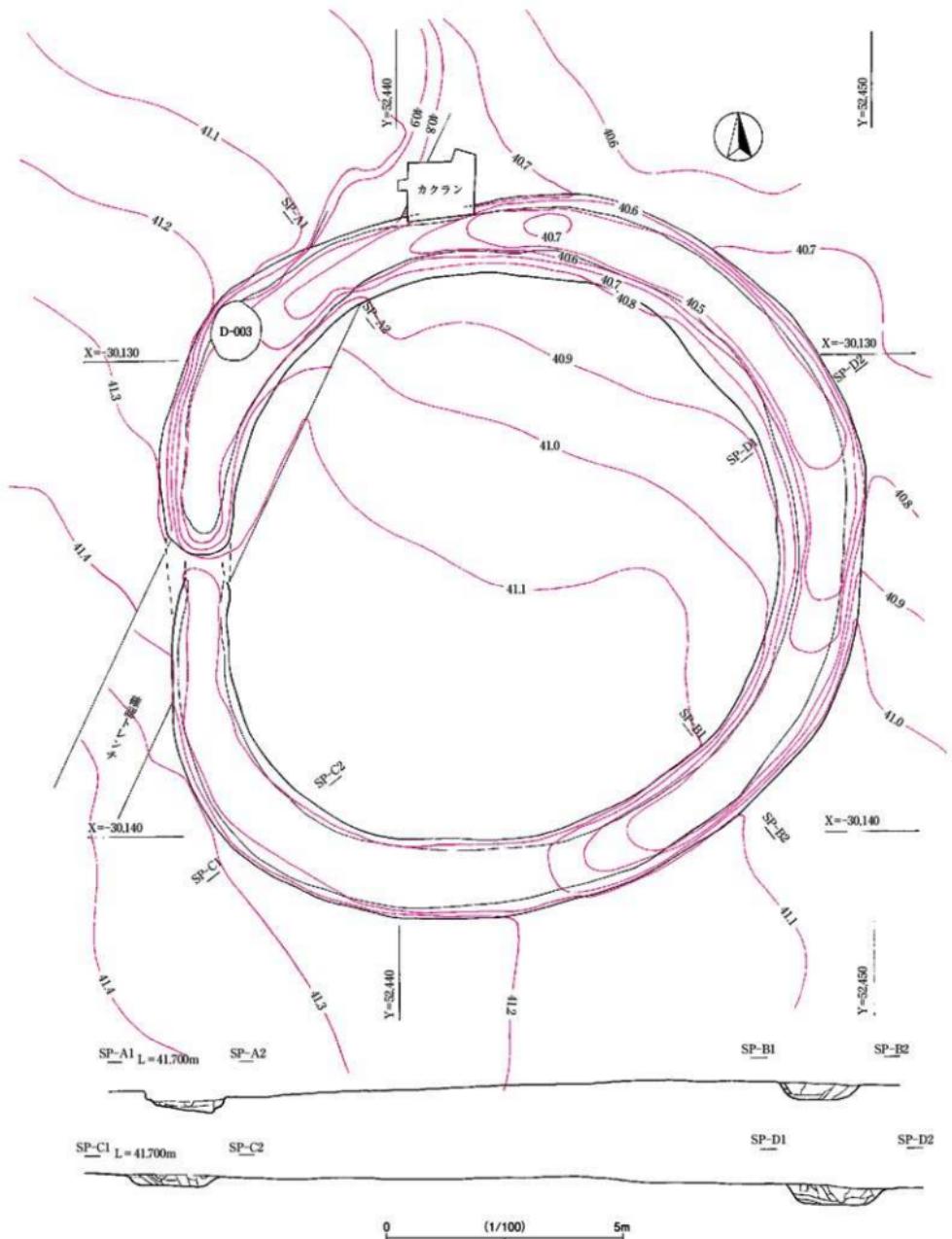
調査区西部に当初竪穴住居跡と思われた遺構であったが、調査を進めるにつれて溝がまわり、形態から円墳と判断した。墳丘はすでに失われていて、遺構検出面はローム層上面にあたり、耕作等による擾乱が多く見られるが、周溝の遺存状態は比較的良好である。

周溝の規模は、墳丘部が東西で外径14.8m、内径11.6m、周溝が外幅1.60~1.94m、底面幅0.72~1.26m、深さ0.20~0.42mを測る。南北では、外径15.0m、内径11.9m、周溝が外幅1.72~1.83m、底面幅1.00~1.35mを測る。断面は、全体的に逆台形を呈するが、一部ゆがんだ逆台形を呈している部分がある。周溝幅は、確認トレンチや耕作等で一部やや幅広く見えるところがあるが、築造当初の周溝幅の差異はほとんどなかったのではと考える。また、確認面からは、埋葬施設は検出されなかった。北西側の周溝底部出土遺物もなく、本遺構を切り込んだ長径1.30m、短径1.04mの楕円形の土坑が検出されたが、周溝内埋葬施設ではなかった。

築造時代だが、埋葬施設が未検出で計測不能な古墳時代の赤彩土器片2点出土したが、詳細な時期決定に欠ける。円墳という遺構の形態や出土した土器片から、6世紀前半の所産と想定される。



第4図 鐵治屋台遺跡古墳土層実測図



第5図 鎌冶屋台遺跡古墳実測図

b. 土坑

調査区から3基の土坑が検出された。それぞれ、出土遺物もなく、時期及び性格は不明である。

D-001 (第6図、図版2-3)

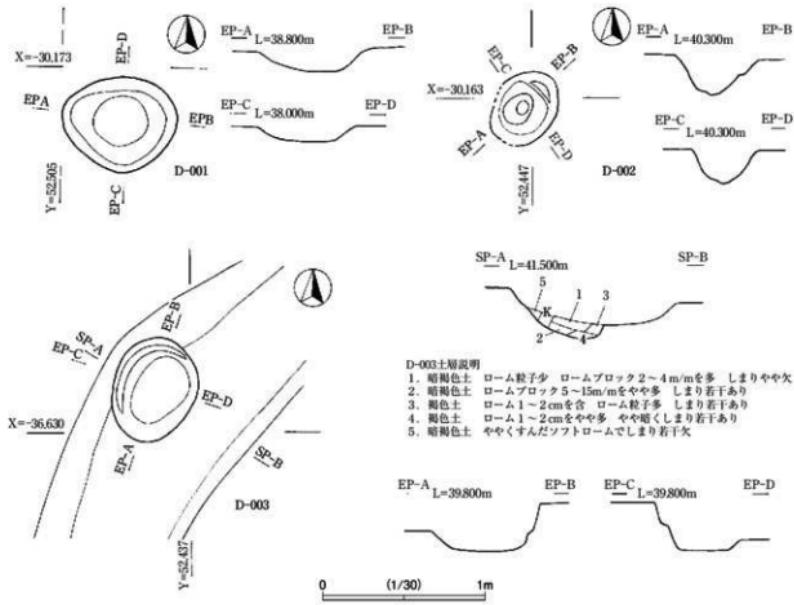
主軸方向：N-4°-W。重複関係：単独。規模と平面形：長径1.42m×短径1.16mの円形を呈し、深さ16~29cm前後を測る。壁：緩やかに外傾して立ち上がる。底面：円形を呈し、平坦である。

D-002 (第6図、図版3-1)

主軸方向：N-48°-E。重複関係：単独。規模と平面形：長径0.98m×短径0.78mの梢円形を呈し、深さ36~42cm前後を測る。壁：緩やかに外傾して立ち上がる。底面：梢円形を呈し、やや平坦である。

D-003 (第6図、図版3-2)

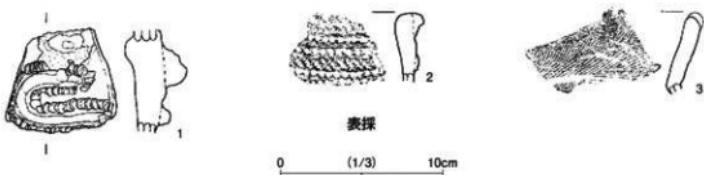
主軸方向：N-18°-E又はN-72°-W。重複関係：古墳より新しい時期に構築。規模と平面形：長径1.30m×短径1.04mの梢円形を呈し、深さ12~60cm前後を測る。壁：緩やかに外傾して立ち上がる。底面：梢円形を呈し、平坦である。



第6図 D-001~D-003遺構実測図

c. 出土遺物

本遺跡から掲載可能な遺物として、縄文土器3点の表探土器を掲載する。周溝等からは、計測不可能な縄文土器及び土師器の小片が出土した。



第7図 錫治屋台遺跡出土遺物実測図

第2表 錫治屋台遺跡出土遺物観察表

遺構 No	鉢 No	種類	器種	遺存度	胎土	色調		時期
						外面	内面	
表探	6-1	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒	淡橙褐色	淡橙褐色	加曾利E
表探	6-2	縄文土器	深鉢	口縁片	白色粒 黒色粒 石英	淡橙褐色	淡橙褐色	加曾利E
表探	6-3	縄文土器	深鉢	口縁片	スコリア少 白色粒 石英	褐色	褐色	加曾利E

2. 上貝來土遺跡（1033-1地点）

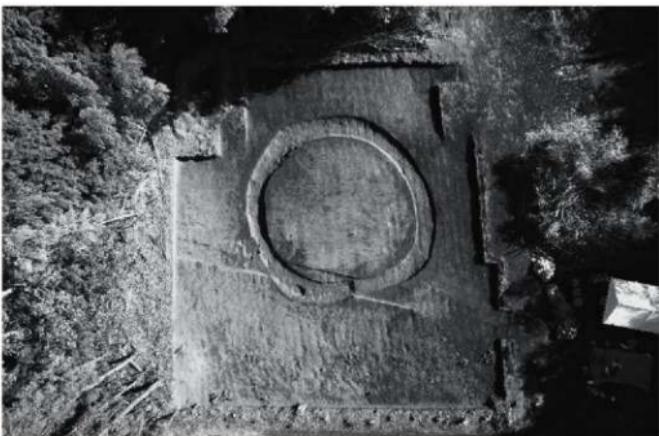
本遺跡は、錫治屋台遺跡の北側にあたり、浅川支谷の最上流部にあたり、標高30mから35mの台地上に立地している。

本遺跡は、調査対象面積は3,486m²で、そのうち258m²の確認調査を令和2年3月10日から3月15日まで実施した。その結果、遺構は検出されなかった。また、縄文土器が10数点出土したが、小破片で摩耗が激しく、計測可能な遺物は出土しなかった。（第3図）

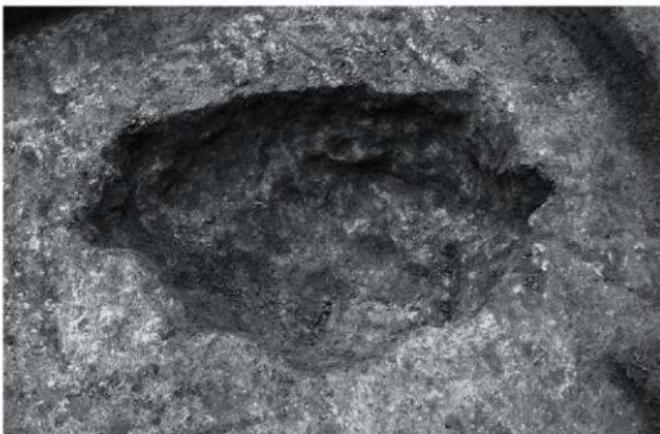
写 真 図 版



1. 鐵冶屋台遺跡
2. 上貝来土遺跡（1033-1 地点）



1. D-002



2. D-003



3. 出土遺物





1. 遺跡近景



2. 第1トレンチ(西より)



3. 第8トレンチ(北より)

報告書抄録

ふりがな	かじやだいいせき・かみかいらいどいせき (1033-1ちてん)
書名	鍛冶屋台遺跡・上貝来土遺跡 (1033-1地点)
副書名	倉庫用地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	芝山町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第10集
編集者	渡辺修司
編集機関	芝山町教育委員会
所在地	〒289-1624 千葉県山武郡芝山町小池973 Tel0479-77-1861
発行機関	芝山町教育委員会
所在地	〒289-1624 千葉県山武郡芝山町小池973 Tel0479-77-1861
発行年月日	西暦2021年11月30日

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °・'・"	東経 °・'・"	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かじやだいいせき 鍛冶屋台遺跡	ちばけんさんぶぐん 千葉県山武郡 しばけんさんぶぐん 芝山町岩山字 いわやまちいわやま 長作816番地他	12409	芝-041	35° 43' 49"	140° 24' 36"	確認調査 2020.01.30～ 2020.02.08 本調査 2020.10.07～ 2021.01.05	確認調査 400/5200 本調査 上層950	倉庫用地 造成
かみかいらいどいせき 上貝来土遺跡 (1033-1地点)	ちばけんさんぶぐん 千葉県山武郡 しばけんさんぶぐん 芝山町岩山字入 いりやまちいりやま 道谷1033番地他	12409	芝-042	35° 43' 51"	140° 24' 32"	2020.03.10～ 2020.03.15	確認調査 258/3,486	同上

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
かじやだいいせき 鍛冶屋台遺跡	散布地 古墳	縄文	なし	縄文土器	当地域では、新発見の古墳 が検出される。
		古墳	古墳	なし	
		歴史	土坑3基	なし	
かみかいらいどいせき 上貝来土遺跡 (1033-1地点)	散布地	縄文	なし	縄文土器	

倉庫用地造成に先行して芝山町教育委員会が、発掘調査を実施した「鍛冶屋台遺跡」及び「上貝来土遺跡 (1033-1地点)」の発掘調査報告書である。

隣接地を平成14年度に勧山武郡市文化財センターが「上貝来土遺跡」として発掘調査を実施し、縄文時代中期中葉から晩期前半までの遺物包含層が検出された。また、北西の近接地は、平成14年度及び平成20年度に勧山武郡市文化財センターが「大滝遺跡」「大滝遺跡(谷向1425地点)」「大滝遺跡(谷向1423地点)」として、平成27年度に芝山町教育委員会が「大滝遺跡(谷向1425地点)」「大滝遺跡(谷向1423地点)」として発掘調査を実施し、それぞれ縄文時代中期中葉から晩期前半まで遺物包含層や堅穴住居跡、土坑、平安時代の堅穴住居跡等が検出され、多数の遺物が出土し、報告されている。

今回報告する両遺跡は、栗山川の支流である高谷川によって開析された松尾台・鍛冶屋台台地上に位置している。標高は、上貝来土遺跡 (1033-1地点) で32m前後、鍛冶屋台遺跡は38~42mを割り台地上に立地している。上貝来土遺跡は、隣接を平成14年度に調査が実施され縄文時代中期から後期にかけての土器を始めとする多数の遺物が出土したが、今回の調査では揭載遺物は出土しなかった。又、鍛冶屋台遺跡は、この地域では、初めての古墳が発見された。なお、主体部は検出されなかった。

要約

芝山町埋蔵文化財調査報告書 第10集

千葉県山武郡芝山町

鍛冶屋台遺跡

上貝来土遺跡(1033-1地点)

-倉庫用地造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書-

印 刷 令和3年11月30日

発 行 令和3年11月30日

発 行 愛花創業株式会社
芝山町教育委員会

編 集 芝山町教育委員会
千葉県山武郡芝山町小池973
TEL 0479-77-1861

印 刷 株式会社 弘 文 社
製 本 千葉県市川市市川南2-7-2
TEL 047-324-5977
